



議会だより

しせん

第80号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 ㈱奄美新社印刷

議案審議結果・附帯決議	2 P
一般質問	3～8 P
伊仙町議会議事堂開場	9 P
政策提言・要望申し入れ	
伊仙町議会構成(第2次)	10 P
徳之島三カ町議会議員大会	11 P
議長の動静	12 P

～新たな伊仙町議会スタート～

令和5年12月12日



令和5年 第4回定例会 一般質問



大河 善市 議員

防犯・防災関連について

問 役場周辺を中心街への防犯灯整備ができないか問う。

(総務課長)

答 防犯基金を活用した形で、今後検討を重ね、実施に向け取り組んでいきたいと考えている。

問 自主防犯組織の体制について問う。

(総務課長)

答 災害に関する考え方としては、自助・共

場として活用する計画で、令和6年当初予算化する予定である。

問 船揚場が整備されていない現状なので、整備されるまでの応急措置として道路脇の空地を整備する考えはないか問う。

(建設課長)

答 現在の空地について、除草作業、コーラル舗装等を行う作業は可能だと考えられるため、早急に仮船揚場として対応を行っていききたいと思う。

鹿浦小学校校舎建替整備計画について

問 鹿浦小学校校舎建替整備計画の取組及び今後のスケジュールについて問う。

(教委総務課長)

答 令和5年度内に3回程度ワークショップを開催し基本計画策定を完了する予定となっている。また、令和6年度に実施計画

及び地質調査に関する予算計上を行い実施した上で、令和7年度から建替え関連の予算措置を行う予定としている。

町政の今後の取組について

問 町長が掲げる町民総参加の町づくり及び今後の町政運営反映における集落座談会開催について問う。

(町長)

答 農繁期ではあるが、令和6年1月から3月までを目的に、全集落を対象として、夜間開催し、町民の多くの方の意見を聞き、現状の伊仙町、そして、未来の伊仙町に關しどのような考えを持っているかを聞いて今後の町政に反映していく事が重要であると考えている。



集落座談会のようす



美島 盛秀 議員

大久保町長の政治姿勢について

問 新庁舎新築工事（1期 本体工事）完了の経緯と2期工事の計画について問う。

（総務課長）

答 本体工事においては、当初の契約が令和3年12月9日から令和4年12月2日、請負額12億3090万円である。その後、3回の変更契約が生じ、工期が令和3年12月9日から令和5年9月11日までとなった。
2期工事の計画については、令和5年度の予算残と通次繰越の予算の性質上、合算をして工事の発注ができないこともあり、今現在

解体工事が進んでいる状況である。12月中に地盤改良工事の指名入札を行い、1月初旬に契約を交わす予定で準備を進めている。地盤改良工事終了後、4月に本体工事の契約を交わし、最終的な工事完了が、令和7年3月31日までと予定している。

問 全体の予算について、23億円強となっているが、この予算以外に、物価高騰によって変更または追加補正が考えられるか問う。

（総務課長）

答 通次繰越のもと、現在、令和6年度予算、令和5年度予算を合わせると約23億2200万円程度の予算組みをしている。契約が完了しているものと、これから契約する見込みのものとのあるが、この中で様々な変更が生じた場合、予算の23億2200万円を収めようと考えている。

要望

可能な限り、決められた予算内で収まるような工事を進めるよう要望する。



役場新庁舎

問 伊仙町地域女性団体連絡協議会の役割について問う。

（社会教育課長）

答 伊仙町地域女性団体連絡協議会は、男女平等の推進、青少年健全育成、高齢化社会への対応、町行事のサポート等の諸活動、また会員相互の親睦を図り、教養を高め、明るく住

みよいまちづくり等に寄与する役割を持っている。主な活動としては、春秋の交通安全運動やトライアスロン大会サポート、町民体育祭でのマスゲーム等である。コロナ禍前には、各小中学校の体育祭での全員踊りの指導と参加を行っていた。

問 組織づくりの中で、新しい役員を決める段階において、決定している集落及び決定していない集落について問う。

（社会教育課長）

答 現在、全25集落のうち、4集落決まっていない集落があり、広報等を活用し、集落の方や、単位役員の方にも声をかけていただくなど、協力しながら組織づくりに努めている。

要望 地域にとっては、大切な役割を果たしている組織の女性連であるので、早急にまともな素晴らしい組織をつくり、伊仙町発展のために努力していただく

ことを要望する。
問 特別養護老人ホーム「仙寿の里」の委託業務の現状について問う。

（地域福祉課長）

答 現在、通所サービスクラス短所サービスクラスが令和5年度途中で休止となっている状況である。町として事業再開に向け、助言等行っており、現在までに3度ヒアリングを行い、その中で、法人全体で運営体制の改善に向けた報告書も提出されている。今後も当該法人においての運営継続を考えているので引き続き助言等行っていく。

（町長）

一日でも早く正常化できるように、新体制の役員の方々にお願いをし、町としても内情を調査しながら、努力していく。



永田 誠 議員

全国離島交流中学生野球大会について

問 徳之島選抜での大会出場において、三町負担金の割合はどうなっていたのか。また、出場選手の個人負担はあったのか問う。

答 (社会教育課長) 出場選手の人数案分となっており、負担金額は、天城町100万円、徳之島町、伊仙町が125万円の合計350万円を三町実行委員会に負担している。内訳として、250万円が大会参加負担金、100万円が運営費となっており、実績終了後に案分した差額分が返金される予定となっている。また、交

通費や大会開催中の宿泊費・昼食代等については、大会参加費に含まれており、出場選手の負担はなかった。

問 奄美大会では、全国より25チームが参加されたが、経済効果について問う。

答 (社会教育課長) 大会事務局が移動や宿泊等の全てを委託した某旅行会社が、各県からの移動費などを含んだ各チームの経費などから試算した経済効果が、約1億3500万円との報告をなされている。

問 次回開催地は長崎県吉岐市とのことであるが、それ以降において、伊仙町または徳之島三町での開催誘致等は検討されていないのか問う。

答 (社会教育課長) 令和6年度は、長崎県吉岐市に決定しており、令和7年度は調整中の離島があると伺っている。会場や宿泊施設等の問題を三町で

協議し、令和7年度以降の誘致を検討していきたいと考えている。

要望 将来の離島振興に寄与することを目的とした大会でもあるので、誘致に向け義名山総合グラウンドの改修整備を要望する。

面縄港施設整備計画について

問 面縄港施設整備計画のコンセプトについて問う。

答 (建設課長) 伊仙町では、面縄港の機能拡大に資する施設整備計画のコンセプトとして、①物流拠点としての整備。②交流人口の増加を促進する施設整備。③海に親しむ空間形成の整備。(子ども議会でも要望があった、人が気軽に交流できる憩いの場の構築など、賑わいのある港湾を整備し、地域活性化に努めるもの)④災害に強い港湾施設づくり、

防災、国土強靱化対策。以上4つのコンセプトを掲げている。

問 どの程度の港湾整備を目指し、地域住民への説明会を行っているのか問う。

答 (建設課長) 水深値9.0m、泊地幅300mの亀徳港や平土野港と同規模の施設整備を目指している。詳細事業の住民説明会については、今後委託する、水深マイナス9.0m改修計画策定業務の進捗に伴い実施していく予定である。

問 施設整備に向けた現時点での進捗状況と今後の見通しについて問う。

答 (建設課長) 実現に向けて、県庁港湾航空課や、九州地方整備局港湾空港部、国土交通省港湾局の方々と協議した中で、亀徳港、平土野港が存在する中で、財政的

な問題や観光体制はできていないのか等、様々な課題が浮き彫りになっている。この、様々な課題をクリアしながら、老朽化が進む中、機能拡大も難しいとなり得る他港より、広大なバックヤードを有し、多様な性に優れている面縄港の必要性を訴える必要がある。今後、民間を巻き込み推進協議会を設立するなど、官民一体となり根拠を固めながら着実に事業を展開していくように努めていく。

要望 実現に向け、プロジェクトチームを作りたい。ただ、事業がスムーズに進むよう要望する。



面縄港



福留 達也 議員

伊仙町総合計画及び総合戦略について

問 第5次伊仙町総合計画及び第2次総合戦略について、両者の違いについて問う。

答 総合計画とは、行政運営を計画的に進めていくためのものであり、一般的に町づくりの設計図と言われている。総合計画に掲げた町の将来像を実現するため、大きな分野の政策方針を定め、その方針に基づいて全ての分野の基本的な施策を定めその施策に基づき具体的な事業を決め、優先順位を決めながら予算を確保し町づくりをし

ていくものとして位置づけられている。一方、総合戦略とは、全国的に進む人口減少と町の衰退を食い止めるため、地方創生（まち・ひと・しごと）に視点を置き、行政・市民・地域・団体・企業など、まち全体で町の活性化に取り組む計画として位置付けられている。

問 平成27年度の策定時に示されている3点の基本構想について、主な成果について問う。

答 1点目の「保健医療・福祉が充実し、赤ちゃんからお年寄りまで健康に暮らせるまち」においては、まずは地域サロンの充実、東部地区に保育所の設立、その他認定こども園などの設立、不妊治療費の助成、放課後児童クラブや見守り等を含めた長寿子宝社の設立、そして、教育委員会が進める親子留学などの受け入れが挙げられる。

2点目の「農業の振興を中心に産業に立ち上がるまち」においては、大手企業との連携による徳之島コーヒーの生産・販売、農福連携事業の推進、ふるさと納税の返礼品や有名レストランとのコラボレーションを通じた地場産・農畜産物の販売・促進、農業支援センター・青緑の里の設立などが挙げられる。

3点目の「世界自然遺産登録・定住促進に取り組み、交流人口を増やすまち」においては、世界自然遺産登録がなされ、それに伴うエコツアーガイドの育成等の施策が進んでいる。また、定住促進については、公営住宅の整備の充実と民間資金を活用した住宅整備、安心・安全な水の提供と町道整備などのインフラの整備の充実、企業誘致については、サテライトオフィスを拠点としたものなどが成果として挙げられる。

問 計画策定に関する条例改正がなされているが、

今後どのようなスケジュール、また内容で計画策定に向けた作業を進めるのか問う。

答 (未来創生課長)

今回の計画策定に関する条例改正については、主に、総合計画と総合戦略を一体化することにより両計画の整合性が図られると同時に、効果検証なども効率的にできると提案されたところである。その中で、今後1年をかけて、町民、児童生徒他関係各位を対象としたアンケート調査の実施、意見交換集落座談会といった作業を、順次進めていく予定である。

問 行政運営の基盤となる重要な計画であるが、行政主体のまちづくりではなく、町民総参加のまちづくりを実現するために、どのような方法で町民の声を反映させていくのか問う。

答 (未来創生課長)

集落座談会を年明けから始めていく中で、

総合計画の3つの柱に基づいて、町民の皆様の視点でどのように捉えられているのか率直なご意見をいただきたいと思っている。併せて、10年後、伊仙町がどうあってほしいかという二極化に分けて町民の皆様に問いかけていき、それをベースに行政がどのような施策が具体的に必要なのかを考え策定の中の課程の中で組み込ませていただきたいと考えている。



集落座談会のようす



井上 和代 議員

戦艦大和慰霊塔修復について

問 戦艦大和慰霊塔修復に向けたGCF(ガバメントクラウドファンディング)プロジェクトの現状について問う。

(町長)

答 戦艦大和慰霊塔は昭和43年に建立、犬田布岬で風の激しい、波の高いところで長い間台風にも耐え、近年は老朽化が進み、崩落の危険がある。犬田布地区の多くの方々が慰霊塔の存続を強く要望し、先人たちの思いが募った慰霊塔で恒久平和の象徴として伊仙町民が今まで守ってきた、誇りと自信を持ってこの慰霊塔をこれから

も守っていききたい。

(きゅらまち観光課長)

8月10日から10月29日の90日間実施したGCFは、寄附件数426件、一般寄附の実績については、企業・団体の寄附件数349件。今後、寄附の申出をいただいている金額を含め、修復費用に対して約3,000万円不足している状況である。

問

修復プロジェクトを進めていくために、今後どのような対策を講じていくのか問う。

(きゅらまち観光課長)

答 本プロジェクトについては、修復並びに延命措置等で、約9000万円の修復費用で寄付を募っており、その他の工法へ変更することはできない事業となっているため、今後も一般寄付を募り、町の財政を圧迫しないよう努力していく。

問

令和6年4月7日に予定されている第57回戦艦大和を旗艦とする特攻戦隊

戦艦大和を旗艦とする特攻戦隊戦没将士慰霊祭までの計画はどのようになっているか問う。

(きゅらまち観光課長)

答 今年度中に修復を完了予定としている。また、慰霊祭の日程に合わせ、町内外から慰霊塔修復に多くのご寄附をいただいているので、修繕セシモノー等も企画している。

問

伊仙町として、犬田布岬に建つ慰霊塔の意義についてどのように捉えているのか問う。

(教育長)

答 戦艦大和慰霊塔は、平和の象徴として後世に残す建物だと考えている。今後、学校教育において、平和に関する授業の中で、戦艦大和慰霊塔に関する学習を進めていく等、環境を整えていくことが私たちに課せられた義務ではないかと考えている。

(きゅらまち観光課長)

「戦艦大和を旗艦とする特



修復工事がスタートした戦艦大和慰霊塔

攻戦隊戦士慰霊塔」は、鹿児島大学名誉教授の中村晋也氏が建立された塔であり、慰霊塔の中央の碑文には、高松宮殿下のご揮毫により題字が飾られ、文化的にも大変貴重な建造物となっている。

今回、本プロジェクトにおいて、多くのメディアに取り上げていただき、目標額には届かなかつたが、全国各地に犬田布岬にある慰霊塔の存在や、中止することなく56回の慰霊祭が執り行われている。毎年執り行われている慰霊

祭に関して広く周知できたことは、私たち職員にとっても大変貴重な取組みだったと感じている。本プロジェクトに支援していただいた方々からの温かいメッセージや思いを受け、本プロジェクトを成功させるためにも担当課として、一日も早く本事業を遂行していきたいと考えている。そして、今後も引き続き、慰霊祭を執り行い、伊仙町から平和のメッセージを発信し続けたいと考えている。



佐田 元 議員

町道の整備について

問 町道木之香系木名線は測量業務を終え数か月経過しているが、その後の進捗状況を問う。

(建設課長)

答 木之香系木名線拡幅工事施工スケジュールについては、令和5年度は、過疎対策道路整備事業により、道路を広げるための片切掘削、のり面整形及びのり面保護工、メンテナンスフリーとして、張りコンクリート及び種子吹つけ工を施行し、令和6年度に防災安全交付金を活用し、舗装工事を行う予定となっている。本工事においては、工事費算定は完了しており、

設計図書等の発注準備を整え1月に発注を実施する予定となっている。

要望

木之香集落民だけでなく、多くの方が活用している道路であることから、大きな事故や災害等も懸念されているので、なるべく早めに工事着工に手掛けていただくよう要望する。

公共施設の利活用について

問 旧保健センター跡地に関する施設再活用計画は検討されているのか問う。

(総務課長)

答 町内の団体より面縄地区活性化計画における農福連携の受け入れ拠点施設として活用したいとの要望があり、令和3年11月に関係各課における検討会を行い、利活用に関しては、町主体の事業、農山漁村発イノベーション等計画を実施するため、地方自治法の規定に基づき令和4年5月1日より現在、行政財産の使用を許可している。

戦艦大和慰霊塔の修復について

問 現時点においての工事着工及び今後の計画について問う。

(きゅらまち観光課長)

答 今議会で承認が得られ、修復に関する業務委託を締結し、今年度中に慰霊塔の修復を完了する計画となっている。

問 戦艦大和慰霊塔修復プロジェクトにおいて、目標額に達しなかった要因として計画性に欠けていなかったか問う。

(総務課長)

答 観光客が訪れる中、老朽化によりコンクリート部分の剥落が進み、立ち入り禁止ロープが張られ今まさに危険な状態であり、この状況の中で遺族会や集落の方々から慰霊塔をこれからも守りつなげてほしいという多くの声を基

に、国・県への要望や、奄振の活用等も検討したが、該当する事業がないという結果を踏まえ、町単独での修復費9000万円を確保するため今回クラウドファンディングに挑戦することになった経緯である。

問 修復後の維持管理計画について問う。

(きゅらまち観光課長)

答 今回の修復後、ドローン等を使用した定期的な目視調査、慰霊塔本体にコンクリート膨張を把握する機械装置などを設置し、状態を把握しながら適切なメンテナンスを行うことにより、延命化を図ることは可能ということである。また、国指定の文化財を含め各方面からの支援が得られるよう今後も働きかけていきたいと考えている。



木之香系木名線 (令和6年2月現在)

伊仙町議会新議事堂において 開場式を執り行いました



伊仙町議会議事堂の開場式にあたり、議会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。はじめに、役場新庁舎が9月24日に開庁し、本日、伊仙町議会議事堂の開場式を迎えることができましたことに、心より感謝申し上げますとともに今日に至るまでに多大なご尽力とご協力をいただきました全ての関係者の皆さま方に改めてお礼を申し上げます。

さて、本日より私たち伊仙町議会は、この新議事堂で町政全般におけるさまざまな諸課題の解決に向け、執行部と審議をすすめ、新たな夢と希望に溢れる町づくりがスタートいたします。この議事堂は、新たな機器や机・椅子などが導入され、また、傍聴席には、車椅子をご利用の方も傍聴できるよう通路をスロープとするなど、これまで以上に開かれた議会として町民の皆様方に情報を発信してまいり所存でございます。

結びに、この議事堂が今後長きにわたり本町のさらなる発展のため実り多い議論の場になることを心より期待するとともに、議会と執行部が共に一丸となって誠心誠意努力していくことをお誓い申し上げます。私のご挨拶いたします。

令和5年12月12日

伊仙町議会議長 前 徹志

令和5年12月15日執行部へ政策提言・要望申入れを行いました！

伊仙町議会総務文教厚生常任委員会並びに経済建設常任委員会において、これまで4回にわたり各常任委員会を開催し、所管する事務事業及び重点事業等の調査・協議を行い、全5項目の要望事項をとりまとめ、執行部に対し、令和6年度当初予算編成にあたり、これらの要望を最大限に取り入れ、施政方針でも掲げられた「町民総参加のまちづくり」、「住みたいまち日本一」の早期実現を目指し各種施策を推進されるよう、下記のとおり政策提言・要望申入れを行いました。

【総務文教厚生常任委員会】

- ・ 学校外教育バウチャー等新たな取組みの実現
- ・ 子育て支援事業(出産祝い金)の拡充

【経済建設常任委員会】

- ・ ドローンによる農薬等散布支援事業の実現
- ・ 無電柱化推進事業の早期実現
- ・ 新たな水源確保に向けた水道ビジョンの見直しについて



町長、教育長へ議長及び各常任委員長より政策提言・要望申入れのようす

伊仙町議会構成

議長 前 徹 志

副議長 永 田 誠

総務文教厚生常任委員会			
委員長	杉	山	肇
副委員長	岡	林	剛也
委員	美	島	盛秀
委員	樺	山	一
委員	前	徹	志
委員	福	留	達也
委員	井	上	和代

経済建設常任委員会			
委員長	清	平	二
副委員長	牧	本	和英
委員	永	田	誠
委員	上	木	千恵造
委員	佐	田	元
委員	大	河	善市
委員	久	保	量

議会運営委員会	委員長 岡林 剛也 副委員長 杉山 肇 委員 永田 誠・清 平二・牧本 和英
徳之島地区消防組合議員	岡林 剛也 ・ 佐田 元 ・ 牧本 和英
徳之島地区介護保険組合議員	美島 盛秀 ・ 杉山 肇 ・ 久保 量
徳之島愛ランド広域連合組合議員	清 平二 ・ 大河 善市・ 井上 和代
議会選出監査委員	上木 千恵造
議会広報委員	委員長 大河 善市 副委員長 井上 和代 委員 永田 誠・清 平二・杉山 肇

議員定数：14名

現議員数：14名任期（令和4年2月3日～令和8年2月2日） ※第2次委員会構成（令和6年2月3日から）

令和5年度 徳之島三カ町議会議員大会

令和6年2月13日(火)徳之島町生涯学習センターにおいて、徳之島三カ町議会議員大会が開催されました。

大会では、徳之島三カ町議会議員連絡協議会会長 行沢弘栄氏より開会のあいさつ、来賓あいさつでは、三町長よりあいさつがありました。

県政報告では、鹿児島県議会議員 禧久伸一郎氏、寿はじめ氏による県政の報告がありました。

次に、提出議題審議では「高潮等災害に強い徳之島子宝空港ターミナルビル建替について」を天城町議会経済建設産業常任委員会 喜入伊佐男委員長より提案理由の説明がなされ、全会一致で採択されました。採択された案件は、第65回奄美群島市町村議会議員大会(大和村)において徳之島地区提出議題とすることに決定いたしました。

次に、議員研修会として、鹿児島県町村議会議長会次長 三原誠氏による「議会における発言についての一考察」と題し、講演が行われました。住民の福祉の増進において、議会は議員が町民の幸せのための町の政策について公に論じる場であり、議会での真摯な政策議論と責任ある政策決定が町民の幸せにつながるということを熱く語られ、このことを基本に活動していくことの大切さを改めて感じることができました。

大会終了後は、農協会館において、懇親会が盛大に開催されました。今後もより一層三町が一体となり地域振興に取り組んでまいりたいと思います。



祝辞を述べる大久保町長



禧久県議による県政報告



壽県議による県政報告



提案理由の説明



三原氏による講演



前議員による閉会のあいさつ

議会の動き

令和5年第4回伊仙町議会定例会における諸般の報告（議長の動静）

動静期間：令和5年第3回定例会（9月15日）以降の分

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

月	日	行事名	場所	月	日	行事名	場所
9月	16日	町内3中学校体育祭	町内	11月	11日	奄美群島日本復帰70周年記念式典	奄美市
	17日	町内小学校運動会（鹿浦・馬根・糸木名）	町内		13日	後期高齢者医療広域連合議会全員協議会及び議員研修会	鹿児島市
	17日	町内小学校運動会（面縄・犬田布・阿権）	町内		14日	各常任委員会	議会委員会室
10月	7日	燃ゆる感動かごしま国体総開会式	鹿児島市		17日	奄美群島振興開発の推進に関する要望活動	東京都
	12日	議会全員協議会・各常任委員会	議会委員会室		20日	伊仙町戦没者合同追悼式	義名山神社
	15日	奄美群島日本復帰70周年記念 第64回伊仙町町民体育祭	総合運動公園		21日	鹿児島県後期高齢者医療広域連合議会第2回定例会	鹿児島市
	20日	第1回伊仙町町有地検討委員会	大会議室		23日	奄美群島日本復帰70周年記念伊仙町産業祭・食の文化祭	ほーらい館
	21~22日	第24回全国闘牛サミットin伊仙町大会	なくさみ館		25日	屋久島世界自然遺産登録30周年記念式典	奄美市
	27日	伊仙町議会県外視察研修	和歌山県		28日	第41回離島振興市町村議会議長全国大会	東京都
	28日	第73回関西西徳洲会定期総会・懇親会	兵庫県尼崎市		29日	第66回町村議会議長全国大会	東京都
11月	29日	関西西徳洲会大運動会	兵庫県尼崎市		12月	1日	行政運営調査会
	31日	鹿児島県離島振興市町村議会議長行政調査	長島町	5日		各常任委員会	議会委員会室
	8日	第40回離島振興市町村議会議長全国大会	東京都	8日		議会運営委員会	議会委員会室
9日	第66回町村議会議長全国大会	東京都	11日	議会全員協議会		議会委員会室	



編集後記

町民の皆様、毎日のお仕事お疲れ様です。
令和6年1月1日に発生しました能登半島地震で、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また被害を受けられた皆様の一日でも早く平穏な生活に戻れます事を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、奄美群島日本復帰70年・伊仙町政施行60周年及び伊仙町新庁舎が完成し9月より新庁舎での業務に職員も新たな気持ちで行っている事と思います。また、町民の皆様も新庁舎を憩いの場としても活用されている事でしょう。

伊仙町議会も令和5年11月議会より新庁舎で開始されましたが、議場も開放的で設備も近代的に整備された議場となっております。

伊仙町議会におきましては、今後も活発な議論を交わし町政発展と住みよい町づくりに取り組んでいきたいと思っております。

私達、広報編集委員も新たなメンバーでスタートし、伊仙町議会だよりが、町民の皆様により分かりやすく親しみやすい紙面づくりを目指し取り組んでいきたいと思っております。

【文責】 大河 善市

議会広報編集委員会



- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 前 徹志 |
| 副委員長 | 大 河 善市 |
| 委員 | 井 上 和代 |
| 委員 | 永 田 平二 |
| 委員 | 清 田 誠 |
| 委員 | 杉 山 肇 |